

決算説明会

2021年3月期 第1四半期

ミネベアミツミ株式会社

2020年8月4日

吉田です。

本日は、私より2021年3月期第1四半期の連結実績について説明し、その後、代表取締役会長兼社長の貝沼より事業概況を含む本日のポイントを説明します。

1Q連結業績サマリー

1Q営業利益は前年比61%増を確保

(百万円)	2020年3月期		2021年3月期	前年同期比	前四半期比
	1Q*	4Q	1Q*	伸び率	伸び率
売上高	204,425	226,897	187,463	-8.3%	-17.4%
営業利益	3,324	12,401	5,364	+61.4%	-56.7%
税引前利益	3,341	11,870	5,274	+57.9%	-55.6%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	2,173	10,428	3,573	+64.4%	-65.7%
基本的1株当たり 四半期利益 (円)	5.23	25.44	8.75	+67.3%	-65.6%

為替レート	2020年3月期 1Q	2020年3月期 4Q	2021年3月期 1Q
US\$	110.73円	109.35円	107.74円
ユーロ	123.56円	121.05円	118.23円
タイバーツ	3.47円	3.54円	3.34円
人民元	16.28円	15.63円	15.12円

*今期1Q営業利益について
コロナ対策費用等 約40億円

*前期1Q営業利益について
①特殊要因 40億円
②ユーシンPPAにより若干修正

2020/8/4

2

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

2021年3月期第1四半期の連結業績は、売上高は、前年同期比で8.3%減、前四半期比で17.4%減の1,874億6,300万円となりました。

営業利益は前年同期比では61.4%増、前四半期比で56.7%減の53億6,400万円となりました。

親会社の所有者に帰属する四半期利益は、前年同期比で64.4%増、前四半期比で65.7%減の35億7,300万円となりました。

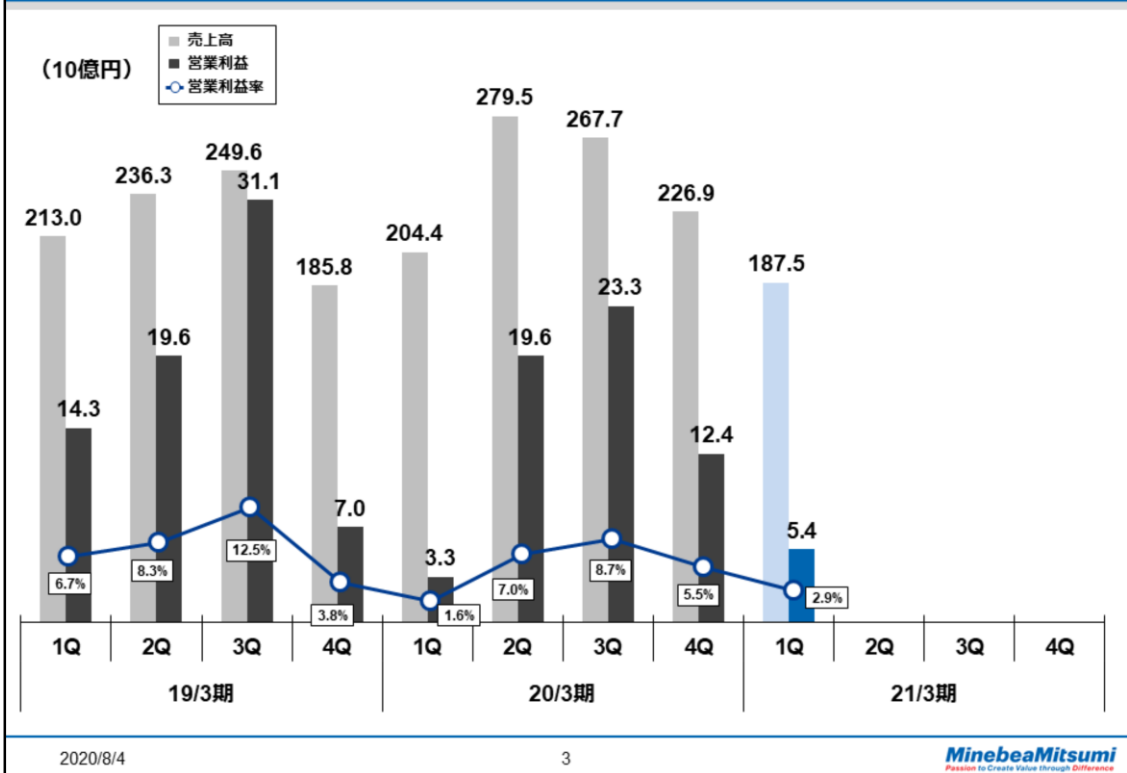
なお、当第1四半期の営業利益にはコロナ対策費用等約40億円が含まれています。

為替の影響は、売上高で前四半期比マイナス34億円、前年同期比マイナス59億円、営業利益で前四半期比プラス8億円、前年同期比マイナス4億円、との推計です。

なお、ユーシンのPPAに伴い前期の財務諸表を若干遡及して修正をしています。

以降のページでは修正後の数値を使用していますのでご注意ください。

売上高、営業利益、営業利益率

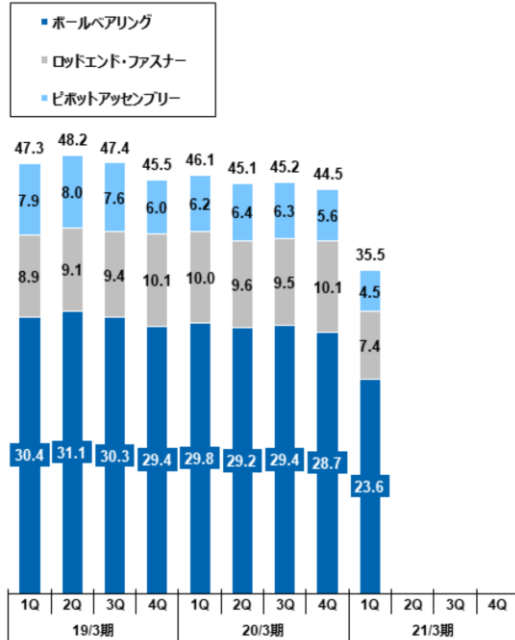


売上高、営業利益、営業利益率の四半期ごとの推移です。

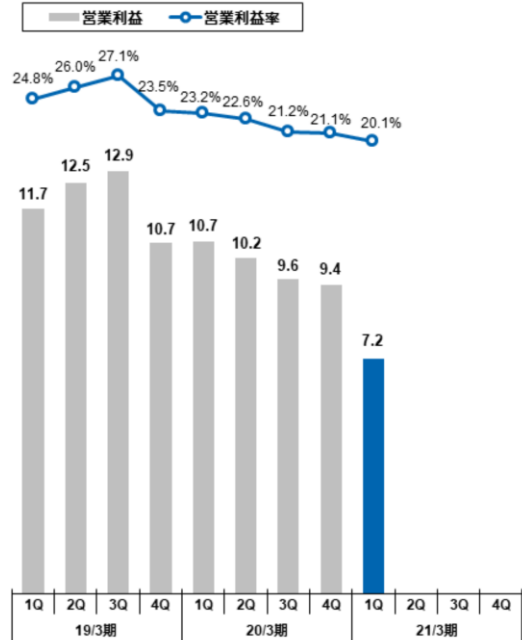
第1四半期の営業利益率は2.9%となりました。これは前年同期比では1.3ポイント上昇、前四半期比では2.6ポイントの低下となりました。

機械加工品事業セグメント

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



2020/8/4

4

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

こちらは機械加工品事業セグメントの四半期ごとの推移です。

左側のグラフが四半期ごとの売上高の推移を、右側のグラフは棒グラフが営業利益、折れ線グラフが営業利益率を表しています。

第1四半期の売上高は355億円、前四半期から20.1%の減少となりました。

ボールベアリングの売上高は236億円、前四半期比で18.0%の減少となりました。外販数量は月平均で1億7,200万個、前四半期比で9%減でした。ファンモーター向けは好調に推移したものの、その他の用途では自動車向けを中心に大きく落ち込みました。また、航空機向けベアリングにおいても市場の急減速を受けて減少しています。

ロッドエンド・ファスナーの売上高は74億円となり、前四半期比で26.4%の減少でした。航空機の生産機数は大幅に減速しており、今期はこのトレンドが継続すると想定しています。

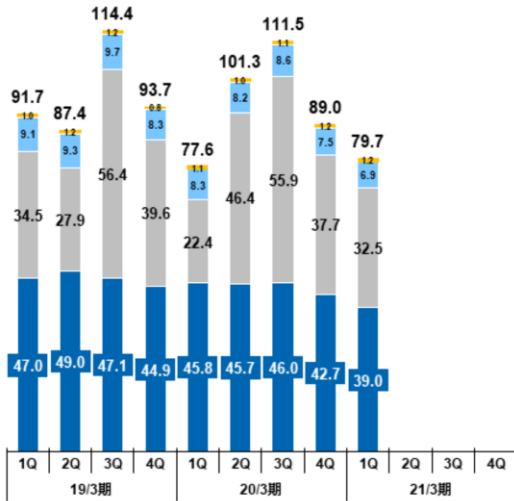
ピボットアッセンブリーは45億円となり、前四半期比で19.8%の減少でした。これは、東南アジアにおけるロックダウンを受けて一部サプライチェーンで稼働調整となったことによります。

営業利益ですが、当四半期は72億円、営業利益率は20.1%となりました。営業利益は前四半期比23.7%の減少となり、営業利益率では1.0ポイントの低下となります。製品別では、ボールベアリング、ロッドエンド・ファスナー、ピボットアッセンブリーすべて前四半期比で減益となりました。

電子機器事業セグメント

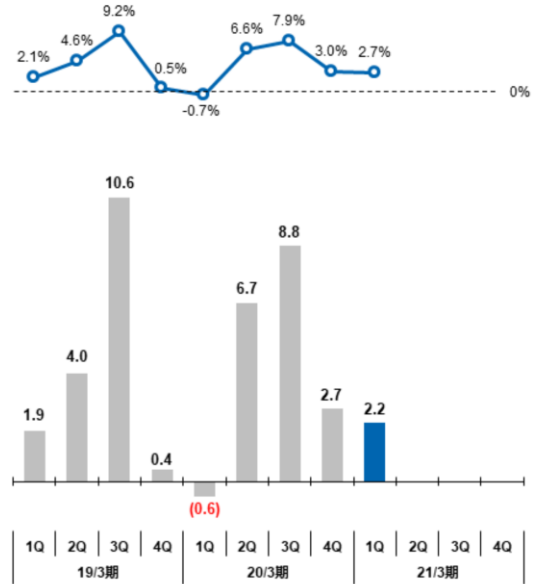
売上高 (10億円)

■ モーター ■ エレクトロデバイス ■ センシングデバイス ■ その他



営業利益 (10億円)

■ 営業利益 ○ 営業利益率



2020/8/4

5

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

電子機器事業セグメントの四半期毎の推移です。

売上高は797億円、前四半期比で10.5%減となりました。

製品別では、モーターは前四半期比8.6%減の390億円となりました。これは、主に自動車市場の減速の影響を受けたことによります。

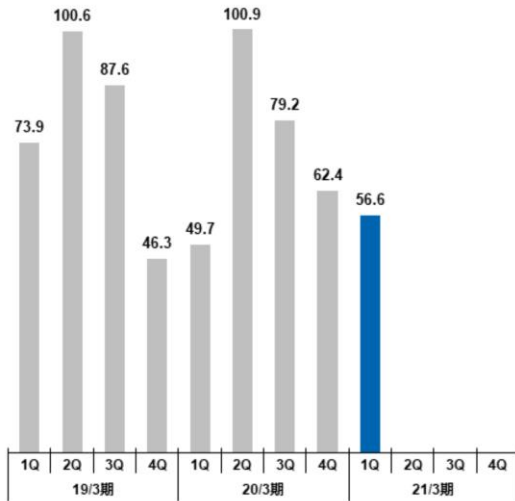
エレクトロデバイスは325億円、前四半期比13.7%の減少となりました。自動車向けは減速しているものの、スマホ向けは主要顧客のLEDバックライト採用モデルの販売が好調に推移しました。

センシングデバイスの売上高は69億円となり、前四半期比で7.5%減少しました。

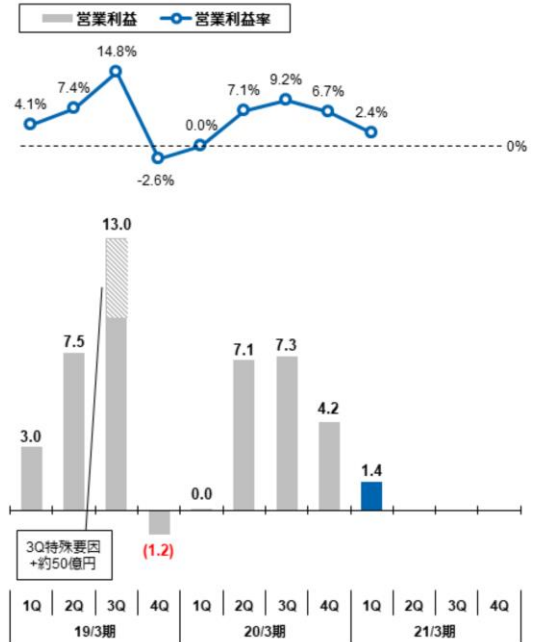
営業利益は22億円、営業利益率は2.7%となりました。前四半期比では営業利益で19.3%減、営業利益率で0.3ポイント低下となりました。製品別の利益率は大きく変わっていません。

ミツミ事業セグメント

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



2020/8/4

6

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

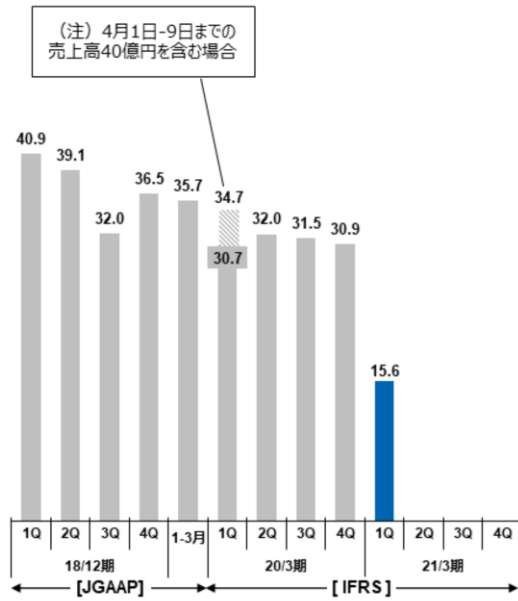
ミツミ事業セグメントの四半期毎の推移です。

なお、第1四半期から、4月30日をもって経営統合が完了しましたエイブリックの5月以降の業績が含まれています。

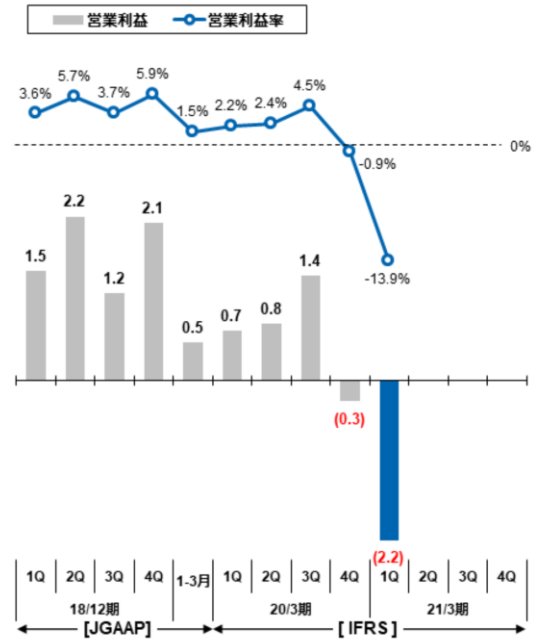
売上高は、566億円と前四半期比9.3%の減少でした。機構部品は世界的な外出抑制による需要増を受けて増収となりましたが、その他の製品においては減収となりました。

営業利益は14億円となり、営業利益率は2.4%となりました。前四半期比では営業利益で67.4%減、営業利益率で4.3ポイント低下となりました。製品別では、機構部品とエイブリックを含むアナログ半導体が増益となり、その他は減益となりました。

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



2020/8/4

7

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

ユーシン事業セグメントの四半期ごとの推移です。

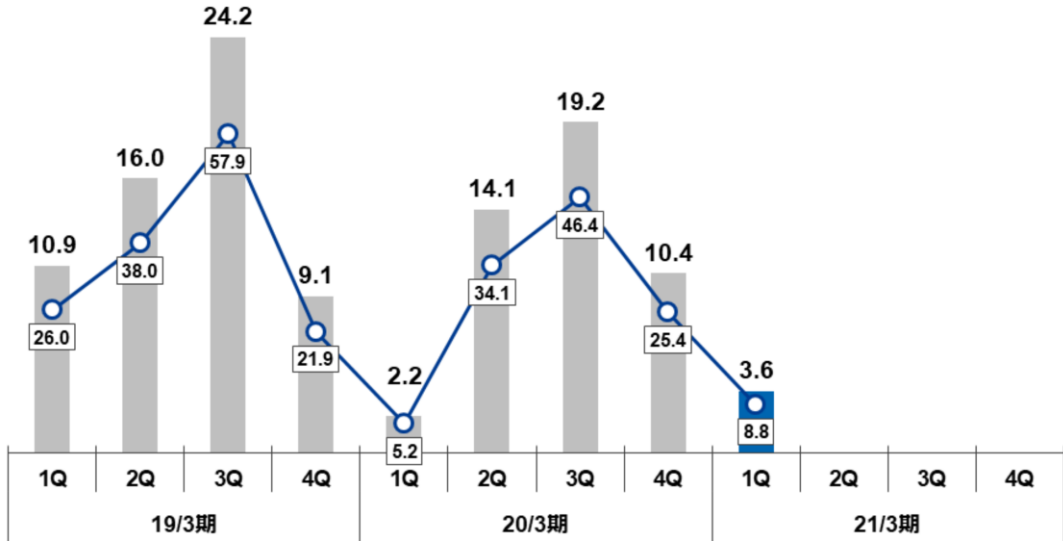
第1四半期の売上高は156億円、前四半期比で49.5%の減少となりました。これは、欧米におけるロックダウンおよび主要顧客の生産調整による稼働制限の影響を大きく受けたものです。第2四半期以降は、大きく回復する部分と停滞する部分が混在したまだら模様となりますが、全体としては回復傾向を見込んでいます。

営業損失は22億円となりました。

親会社の所有者に帰属する四半期利益

(10億円)

■ 親会社の所有者に帰属する四半期利益 ○ 基本的1株当たり四半期利益 (円)



2020/8/4

8

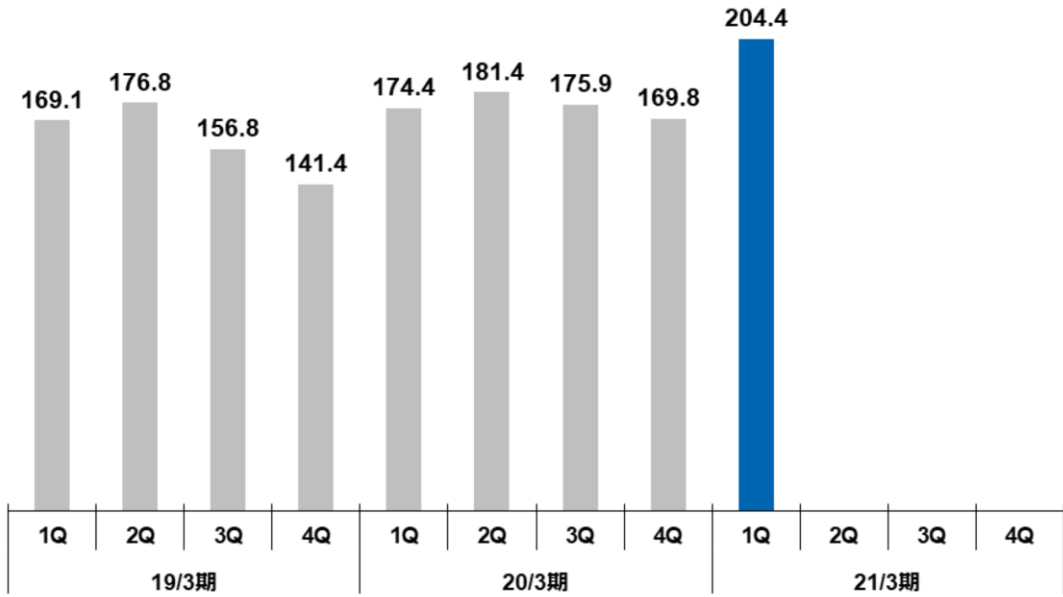
MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

このスライドは、親会社の所有者に帰属する四半期利益の推移を棒グラフで、1株当たり四半期利益の推移を折れ線グラフで表しています。

四半期利益は36億円、1株当たりでは8.8円となりました。

棚卸資産

(10億円)



2020/8/4

9

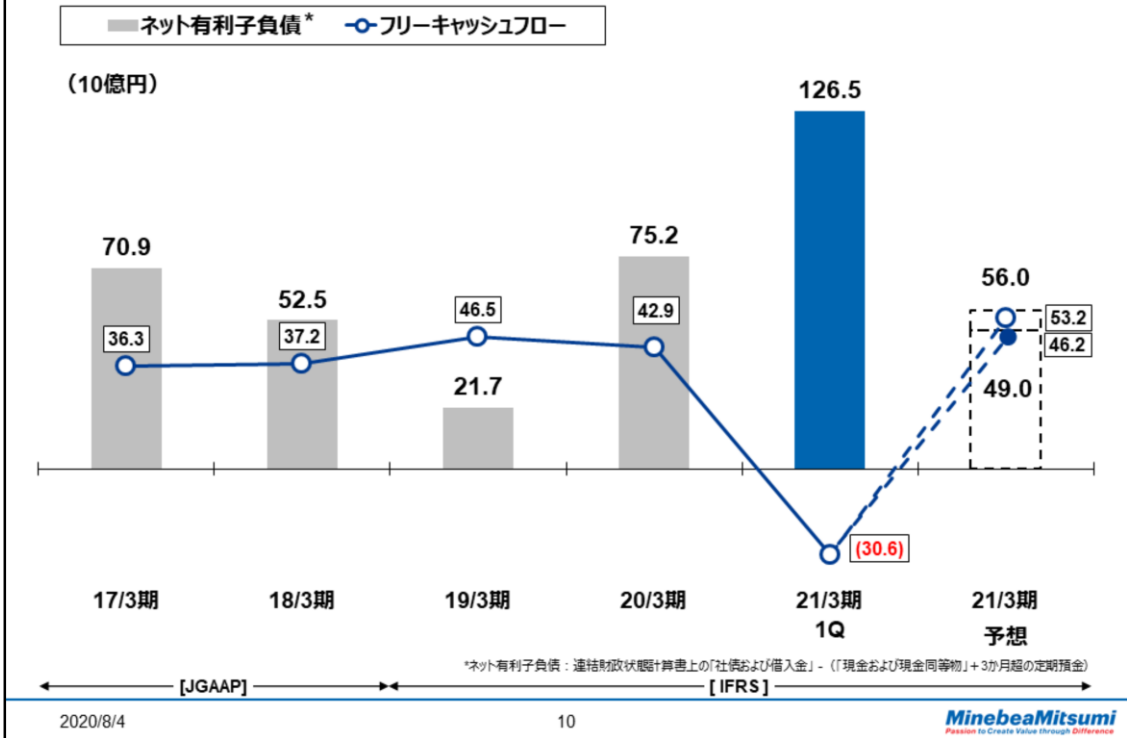
MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

続きまして、棚卸資産の四半期ごとの推移です。

第1四半期末は2,044億円となり、3カ月前と比べると346億円の増加となりました。エイブリックの新規連結に加え、一部OEM製品において需要期に向けた増産が開始したためです。

ネット有利子負債、フリーキャッシュフロー

18/3期以前はJGAAP



このグラフは、有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債の推移を棒グラフで、フリーキャッシュフローの金額を折れ線グラフで表しています。

第1四半期末におけるネット有利子負債は1,265億円となり、2020年3月末から513億円増加しました。これは、主にエイブリックの株式取得費用339億円、およびC&Aの株式追加取得費用46億円などによります。

前回予想から変更なく、上限／下限のレンジとします

(百万円)	2020年3月期		2021年3月期			
	通期		上限		下限	
			通期	前期比	通期	前期比
売上高	978,445	1,000,000	+2.2%		900,000	-8.0%
営業利益	58,647	60,000	+2.3%		50,000	-14.7%
税引前利益	58,089	59,000	+1.6%		49,000	-15.6%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	45,975	47,000	+2.2%		39,000	-15.2%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	111.11	115.08	+3.6%		95.49	-14.1%

為替レート	2020年3月期 通期	2021年3月期 想定
US\$	109.12円	107.00円
ユーロ	121.27円	115.00円
タイバーツ	3.52円	3.30円
人民元	15.68円	15.00円

2021年3月期の通期業績予想につきましては、期初発表しましたレンジでの予想から変更ございません。下半期においては引き続き精査中でありますため期初計画を据え置くこととしています。

為替レートは、上限、下限とも1ドル107円を想定しています。

セグメント別業績予想

(百万円)	2020年3月期 通期	2021年3月期			
		上限		下限	
		通期	前期比	通期	前期比
売上高	978,445	1,000,000	+2.2%	900,000	-8.0%
機械加工品	180,885	170,000	-6.0%	160,000	-11.5%
電子機器	379,422	356,000	-6.2%	324,000	-14.6%
ミツミ事業	292,243	373,000	+27.6%	335,000	+14.6%
ユーシン事業	125,145	100,000	-20.1%	80,000	-36.1%
その他	750	1,000	+33.3%	1,000	+33.3%
営業利益	58,647	60,000	+2.3%	50,000	-14.7%
機械加工品	39,874	37,000	-7.2%	33,000	-17.2%
電子機器	17,552	16,000	-8.8%	14,000	-20.2%
ミツミ事業	18,656	24,000	+28.6%	22,000	+17.9%
ユーシン事業	2,598	1,000	-61.5%	△1,000	-
その他	△1,502	△2,500	+66.4%	△2,500	+66.4%
調整額	△18,531	△15,500	-16.4%	△15,500	-16.4%

2020/8/4

12

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

こちらは、各事業セグメント別の予想です。

セグメント別の業績予想につきましても、期初計画から変更ございません。

- **全体**：コロナ禍において**1Q営業利益は前年比61%増を確保**。
上半期の営業利益は前年並みの水準が見えてきた。
多様化したポートフォリオが収益を支える。リスク分散にも寄与。
- **下半期は依然として未確定要素があり、**
通期ガイダンスは引き続き上限／下限のレンジとする。
- **機械加工品**：ボールベアリング外販数量は、
依然として不透明ながら**3Q以降順次回復するものと期待**。
民間航空機向けは**変化なし**。
- **電子機器・ミツミ事業**：スマホ・ゲームが**収益を支える**。
アナログ半導体は**コア事業として安定的に収益に寄与**。
- **ユーシン事業**：一部工場は稼働率**100%に戻った**。
2Qから底を脱し回復へ。

2020/8/4

13

貝沼です。私のほうからは、まず4点ほど現状の報告をさせていただきたいと思います。

まず1番目に、1Qの営業利益ですが、機械加工品は前期比で減益になりましたが、電子機器事業とミツミ事業の増益で何とかカバーできました。ただし、ユーシン事業まで完全にカバーとはいきませんでした。前期1Qには特殊要因が40億円ありましたので、今期は特殊要因を除くと前年比で減益となりました。

2番目に申し上げておきたいのは、売上は徐々に戻ってきており、2Qは2,700億円プラスの売上が立つ見込みで、上半期としての営業利益は前年並みで推移するのではないかと考えています。本年5月にご案内しました業績予想に対しては順調に推移していますが、下半期についてはまだ不透明な状況があるため、今回はレンジの予想を維持させていただきたいと思います。

3番目にLEDバックライトについて、1カ月ほど前にある新聞の一面において、あたかもLEDバックライトの携帯電話がなくなるかのようなニュアンスの記事が出ていました。その後、同紙の台湾関係の記事では「なくなる」というニュアンスで書かれていました。振動幅は随分少なくなってきたとはいえ、株価はいつもこのようなニュースの影響を受けており、ネガティブなインパクトがあることは否めませんが、LEDバックライトはなくなるという私のコメントは変わっていないことをご理解いただければと思います。

最後に足元の状況についてですが、1Qの機械加工品の業績が悪化したことには2つ原因があり、それは自動車と航空機です。中でも民間航空機向けは確かに市場の急減速によるダメージが大きいです。防衛向け製品等があり、赤字にはなっていないというのが現状です。

ボールベアリングは少し製品ミックスが変わり、5G関連のファンモーターが増えて自動車が大きく落ちましたが、足元では自動車が好調になりつつあります。自動車用ベアリングは、日本向けでは月に1,000万個販売できるとかなり強い水準ですが、今月、来月と1,000万個の達成が見えてきており、ヨーロッパとアメリカも増えてきています。自動車全体では、過去最高の月次販売数量は6,500万個くらいですが、現在は約5,000万個強になっています。これが徐々に戻ってくるということで、製品ミックス的には非常に良い傾向と思います。

ファンモーター向けは、米中間題の影響で中国のお客様の生産が少しスローダウンしています。5G関連の注文は最終的には他のお客様にシフトする可能性があるわけですが、いずれにしても当社のベアリングが必要ということになります。多少のスローダウンはありますが、また力強く前進していくものと考えています。

7月の外販数量は1億8,300万個でしたが、9月から10月にかけては1億9,000万個～2億個という数がようやく見えてきました。ベアリングは先行指標というお話をよく申し上げていますが、このような意味でも強さが戻ってきているといえます。

1 今期はレンジでのガイダンスを継続

- 上半期の営業利益は前年並みの水準が見えてきた
⇒ COVID-19後は従来の成長軌道に戻る

2 主力事業の成長で事業ミックスを中長期的に強化

- ボールベアリング ✓ 超高品質、構造的増加、圧倒的競争力
- モーター ✓ ハイエンドにフォーカス
- カメラアクチュエータ ✓ イノベーションと構造的増加
- アナログ半導体 ✓ エイブリックとのシナジー

3 中長期的なキャッシュアロケーション方針は不変

- 配当と自社株買い：FCFの**50%**、配当性向**20%**程度
- M&A：バリュエーション魅力度UPの好機を確実にとらえる

2020/8/4

14

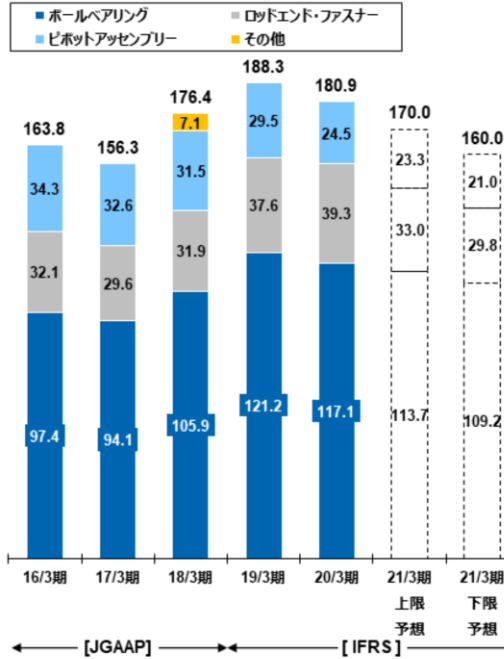
こちらのメッセージはシンプルで、シェアの高い製品に関してはコロナを含めた世界的な景気の影響を受けざるを得ませんが、当社の中長期的な成長ストーリーには変化はありません。景気が回復してくれば収益力が一段と力強く回復していくという構図は決して変わっていないと確信しています。



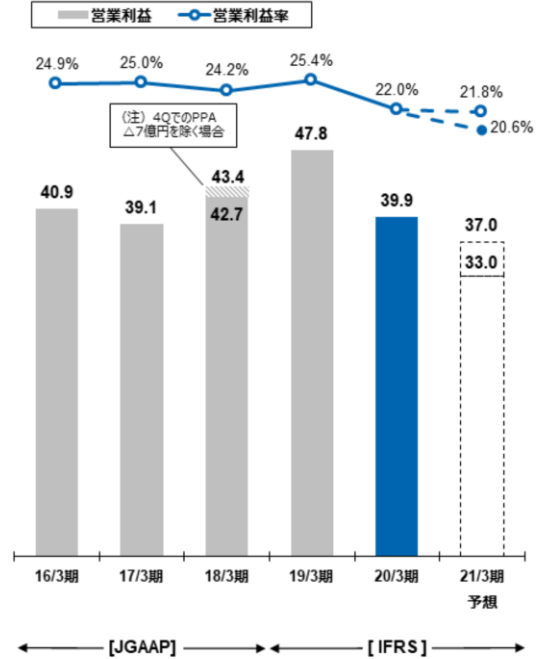
当資料で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

参考資料

売上高 (10億円)



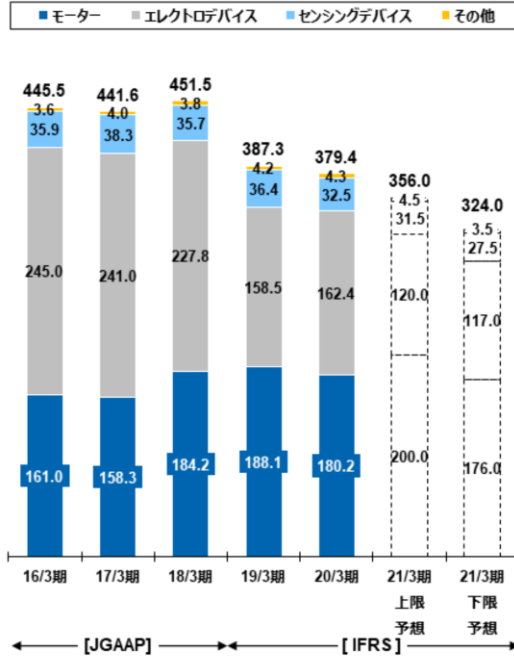
営業利益 (10億円)



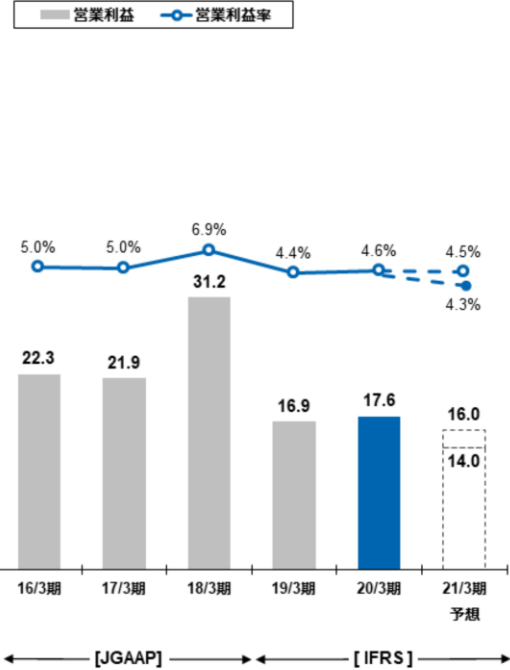
2020/8/4

17

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



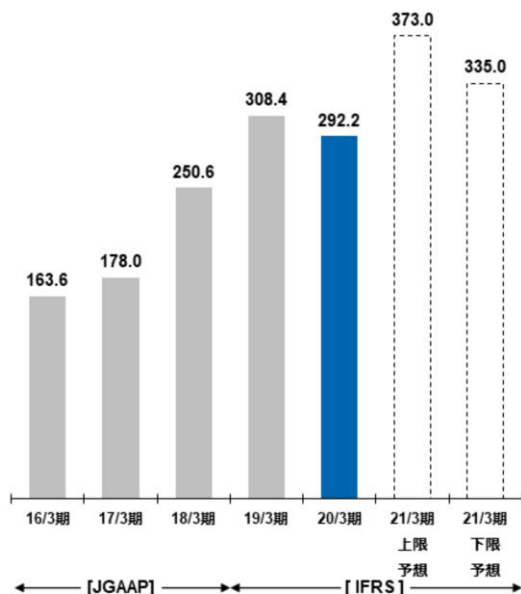
2020/8/4

18

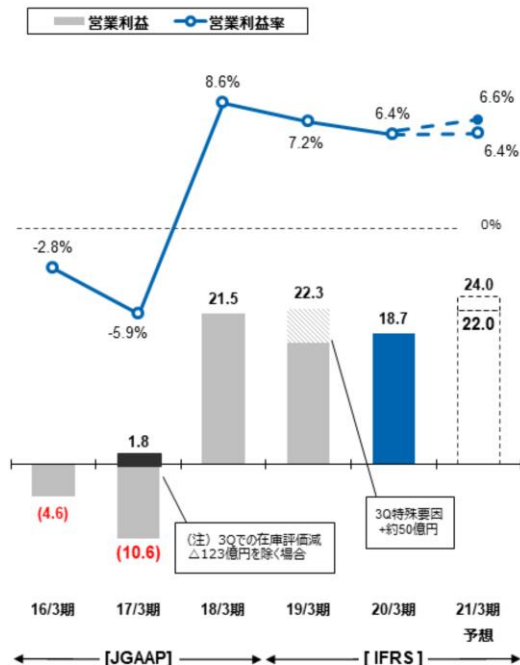
ミツミ事業セグメント

売上高、営業利益ともに、17/3期3Qまでは、経営統合前。
17/3期4Qは3ヶ月分の管理会計ベース。18/3期以前はJGAAP

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



2020/8/4

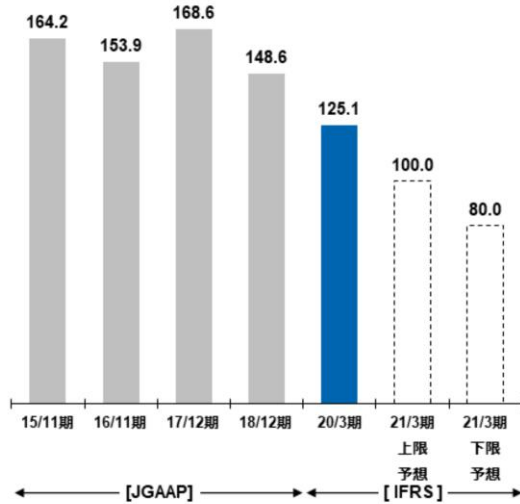
19

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

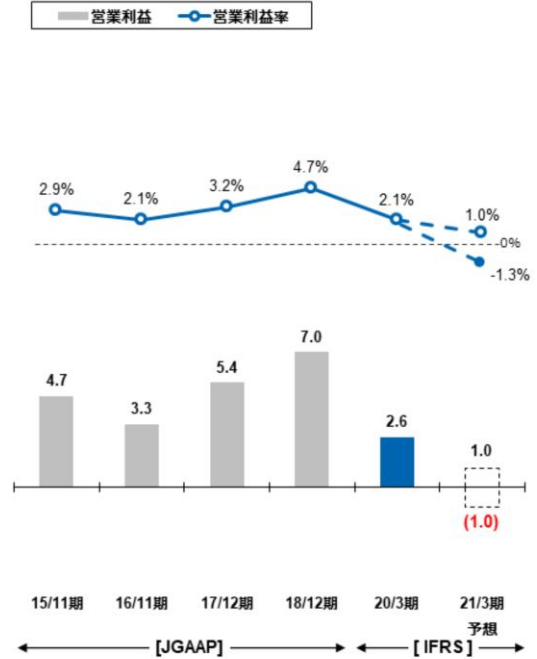
ユーシン事業セグメント

決算期変更に伴い17/12期は13ヶ月決算
18/12期以前は経営統合前の参考値でJGAAP
20/3期は2019年1-3月の数値を含まず

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



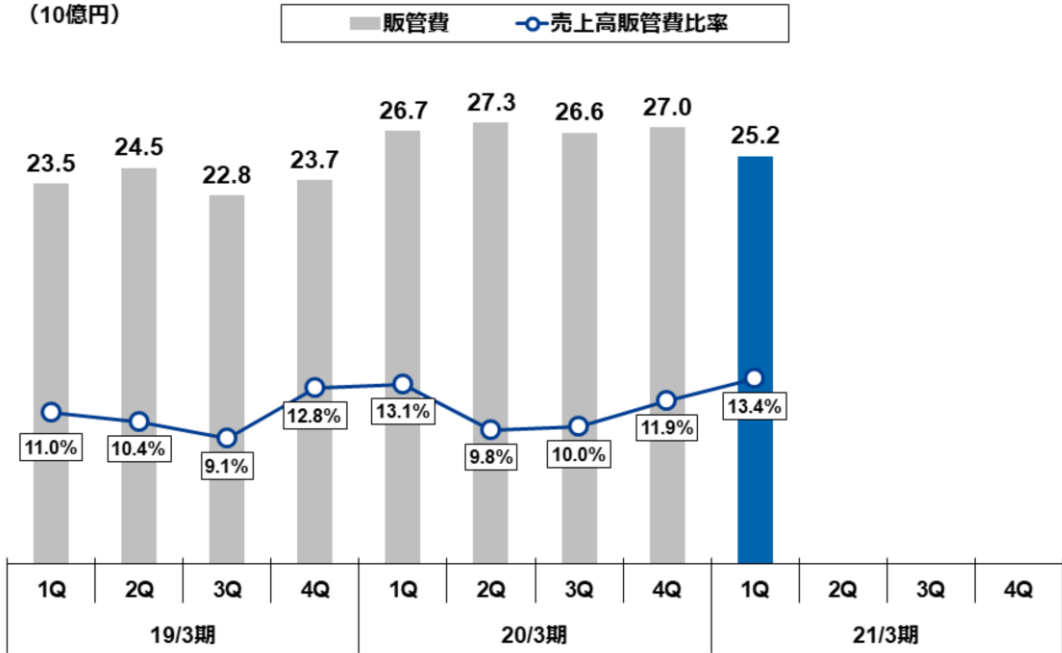
2020/8/4

20

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

販管費

(10億円)



2020/8/4

21

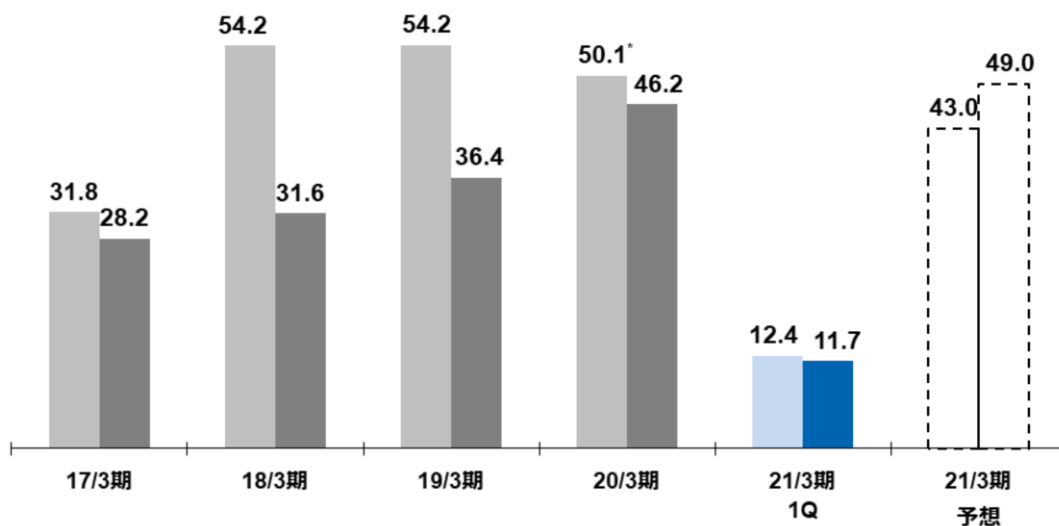
MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

設備投資額・減価償却費

18/3期以前はJGAAP

(10億円)

■ 設備投資額 ■ 減価償却費



*20/3期1Q設備投資額には、IFRS16号適用開始日に増加したリース資産は含まれておりません。

← [JGAAP] → [IFRS] →

2020/8/4

22

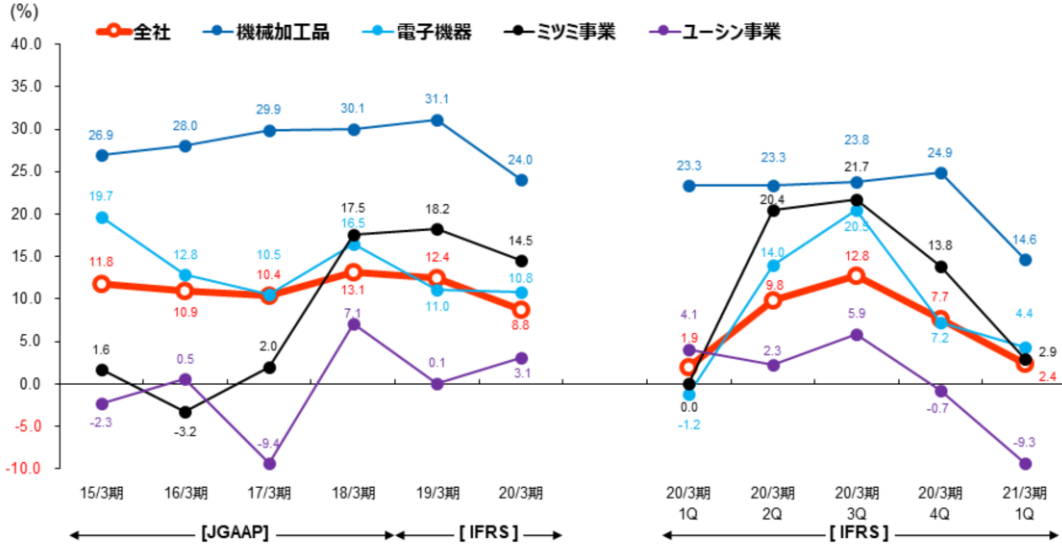
MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

ROIC (投下資本利益率)

ユーシン事業は19/3以前は経営統合前の参考値でJGAAP、全社には含まない。その他のセグメントは18/3期以前はJGAAP

$$\text{ミネバミツミ版 ROIC} = \frac{\text{NOPAT (営業利益+特別損益)} \times (1 - \text{税率})}{\text{投下資本 (受取手形+売掛金+棚卸資産+固定資産-支払手形-買掛金)}}$$

セグメント別で管理できる事業資産（売上債権・債務、棚卸資産、固定資産）で算出



2020/8/4

23

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference